

報道関係各社 各位

2014年4月15日

※このリリースは複数の部署にお送りしています。

## 日本海の表層型メタンハイドレート 資源量把握のための調査を開始

昨年度に続き（独）産業技術総合研究所と共同

明治大学ガスハイドレート研究所は、昨年度に引き続き2014年度も、独立行政法人・産業技術総合研究所とともに国のメタンハイドレート開発促進事業の一環としての「日本海の表層型メタンハイドレートの資源量把握のための調査」を実施します。

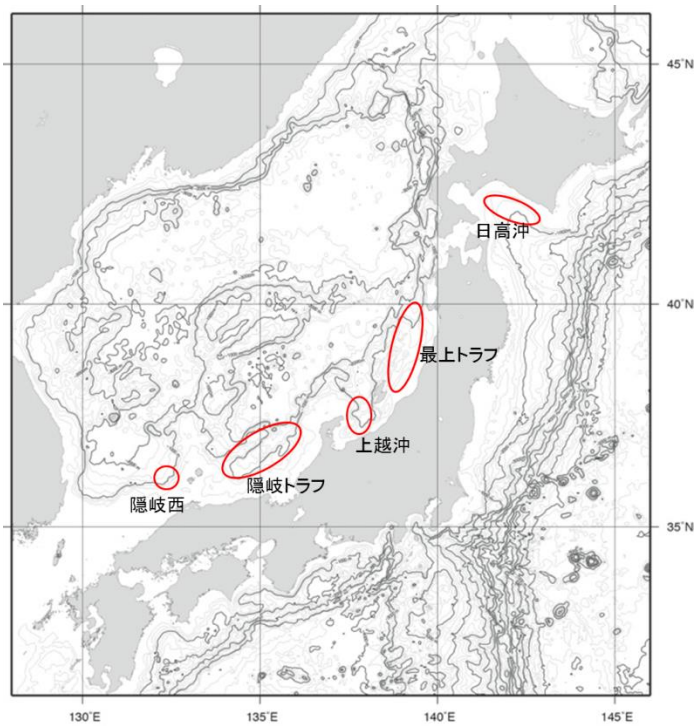
資源量把握のための海洋調査は1. 広域地質調査、2. 詳細地質調査、3. 掘削調査、4. 電磁探査、5. 環境モニタリング調査の5つからなり、このうち、明治大学は1 広域地質調査、3 掘削調査、5 環境モニタリング調査を担当します。広域地質調査では調査船・第七開洋丸（芙蓉海洋開発）の船底に装備された音響観測装置を用いて、海底の微地形と海底下の構造を把握し、海底および海底下に分布が予想されるハイドレートマウンドとガスチムニーを探索します（図1）。

4月中旬に開始し、約8週間かけて隠岐の西方・対馬海盆から隠岐トラフ、上越沖、最上トラフ、北海道日高沖の各海域を調査する予定（図2）。掘削調査では地質サンプルの取得を目指します。環境モニタリング調査では、無人探査機（潜水艇）を用いた海底観察（図3）および長期モニタリング装置の回収と設置（図4）を予定しています。広域調査と環境モニタリング調査は昨年度も実施しており、調査の概要については、ガスハイドレート研究所のホームページ（<http://www.kisc.meiji.ac.jp/~hydrate/>）に昨年度成果を発表した「表層メタンハイドレート・フォーラム」の資料が掲載されているのでそちらをご参照ください。

▼図1 2014年度調査で用いる第七開洋丸



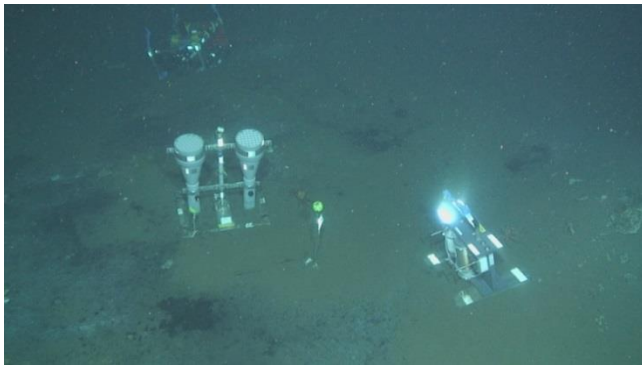
▼図2 2014 年度広域地質調査を予定している海域



▼図3 メタンハイドレートが露出する上越沖のハイドレートマウンドの頂上付近  
(2013 年度の環境モニタリング調査より)



▼図4 海底に設置した各種のモニタリング装置 (2013 年度調査から)



◇お問い合わせ先：

明治大学 経営企画部広報課 担当：澤内  
明治大学 ガスハイドレート研究所

電話：03-3296-4082  
電話：03-3296-1865